

## 『平和の心が宿る青い目の人形』



シドニー・L・グーリック博士  
(1860～1945)

「青い眼をしたお人形は アメリカ生まれの  
セルロイド

日本の港に着いた時 いっぱい涙をうかべてた  
わたしは言葉がわからない 迷子になったら  
なんとしよう

やさしい日本の嬢ちゃんよ

仲よく遊んでやってくれ

仲よく遊んでやってくれ」

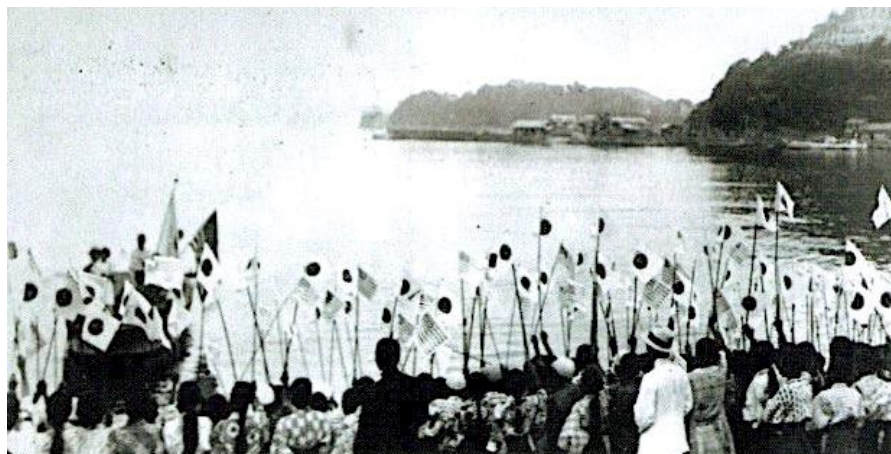
1921年に野口雨情のぐちうじょうがつくったこのわらべうたは、その当時大流行していました。それから数年たってアメリカから日本にたくさんの青い目の人形がやってきました。

アメリカ人のグーリック博士は1888年から20年間宣教師せんきょうしとして日本に住んでいました。松山にも7年間女学校（現在の県立松山南高校）の英語の先生として住んでいました。

グーリック博士の帰国後、日本とアメリカは移民の問題などで仲が悪くなっていきました。日本に長く住んで日本を愛するグーリック博士はそのことで頭を痛めていたいました。「子どものころから友好の心を持っていれば、大人になっても仲よくできる。人形のつぶらな瞳ひとみの中に戦争や憎しみにくではなく、生命を限りなくいとおしむ、平和な心が宿っている」と考え、アメリカから日本に「友情の人形」を贈ろうとアメリカの人々に呼びかけました。すると、260万人というたくさんのアメリカ人が協力し、12,739

体の青い目の人形が集まりました。それらの人形には、人形の名前や出身地を記したパスポートが用意され、1927年3月のひなまつりに間に合うように船で運ばれてきた人形を大勢の人が出迎えました。

日本各地の小学校や幼稚園に届けられた「青い目の人形」は、ひなまつりに飾ってお祝いするだけでなく、遠足に行ったり、運動会を見学したり、歌や劇に仲間入りしたりして、友情を深めていきました。愛媛県にも214体の人形が届けられました。



1927年（昭和2年）八幡浜真穴地区での人形歓迎の風景

青い目の人形が届いた日本では、すぐにお礼の人形を贈ろうと全国の小学生たちが一銭募金（1円は100銭）をしました。それらのお金で58体のりっぱな日本人形を作りました。それぞれの人形には「ミス日本」「ミス北海道」「ミス愛媛」などの名前をつけました。そして、その年の11月にアメリカに送られ、アメリカ各地で大歓迎を受けました。

ところが、ピューリック博士の願いも空しく1941年に日本とアメリカは戦争を始めました。すると、「青い目をした人形は憎いアメリカの人形だ。許さんぞ」などの新聞記事がのるようになりました。そのため、ほとんどの人形は、竹やりで突かれたり、焼き払われたり、海や川に捨てられたりしました。しかし、そのようなひどい仕打ちをうける青い目の人形に心を寄せる人がいました。その人たちは、そっと天井裏にかくしたり、自分の家に持ち帰ったりしました。1945年8月15日、戦争が終わりました。

現在、日本に届いた12,739体の青い目の人形の内334体が今も無事であるこ

とが確認されています。愛媛県では、西予市<sup>せいよし たわらず</sup>の俵津小学校に2体「フランセッタ」と「ノーマ」ちゃん、西予市<sup>かりえ</sup>の狩江小学校に1体「ピッティ



左の写真は、「えひめの青い目の人形」  
左よりフランセッタ（俵津小）、  
ピッティ（狩江小）、  
ベティ・ジェーン（神山小）、  
ブルー（四阪島小）、  
ノーマ（俵津小）

この5体の人形を手がかりに、松山市の人形愛好家の田中安子さんは、青い目の人形に込められたやさしい心や平和の願いを広げようとさまざまな活動をしてきました。

まず、日本からアメリカのミシシッピ州に送られた日本人形の「ミス愛媛」がハリケーンで無くなったことを知り、小中学生に10円募金を呼びかけ、そのお金で2代目の「ミス愛媛」を送りました。また、青い目の人形物語を大型の紙芝居にして、各地で紹介しました。

さらに、全国の青い目の人形が保存されている学校に呼びかけて、青い目の人形ぬり絵おひなまつり展を開きました。

そして、2015年には、苦労して手に入れた愛媛で6体目となる青い目の人形を愛媛大学の附属小学校に託しました。附属小学校では、当日、青い目の人形の歌を合唱してあたたかく迎え、世界の人たちと仲良くするやさしい子になることをちかいました。

八幡浜市の神山小学校では100年以上前から「心豊かで、やさしい人になるように」とひなまつりを行ってきました。

そのひなまつりでは、自分たちの手作りのひな人形と一緒に「ベティ・ジェーン」

ちゃんとギュリック三世から送られた「キャロル」ちゃんの青い目の人形をひなだんに飾り、歌を歌ったり、踊ったり、作文を朗読したりしてきました。2017年3月3日のひなまつり音楽会では「心は一つに音楽の花を」をテーマに「世界が一つになるまで」や「世界に一つだけの花」などの歌や合奏を発表しました。

なお、ギュリック博士の孫にあたるギュリック三世は、博士の思いを受け継ぎ、現在も日本全国に「新・青い目の人形」を贈る活動を続けています。平和の心の宿る青い目の人形を通しての交流は、これからもずっと続いていくことでしょう。



八幡浜市神山小学校で毎年開催している「ひなまつり音楽会」  
(写真は2017年3月3日)

参考にさせていただいた本

「青い目の人形」 武田英子著

「青い目の人形」と「ミス・エヒメ」物語 田中安子著

お世話になった方

日米人形交流実行委員会愛媛代表 田中安子

神山小学校長 甲野正人